



## 始まりました！

中部中学校区コミュニティ・スクール連携推進事業

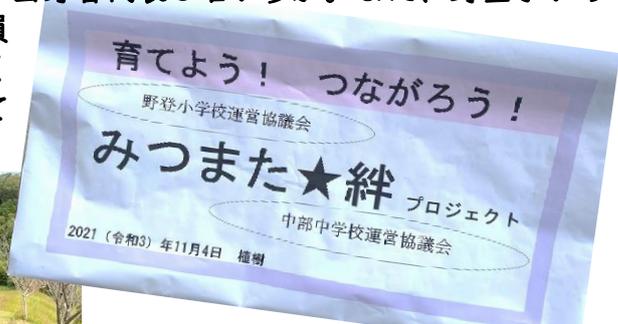
# 「みつまた★絆プロジェクト」



平成31年度より野登小学校が、令和2年度より中部中学校が、それぞれコミュニティ・スクールとなり、「地域とともにある学校」を目指し地域との連携・協働を進めています。

そのような中、これまでも、野登小と中部中は、小中間における連携を推進し児童生徒の教育実践を積み重ねてきましたが、両校がコミュニティ・スクールとしての学校運営をスタートさせたことを機に、一層の小中連携を図るため、「みつまた★絆プロジェクト」を実施することとなりました。ご存知の方もあると思いますが、野登小学校では、かねてより、「みつまた」を原材料に卒業証書を作る取組が継続して行われています。そこで、もちあがったのが、野登小と中部中の連携と絆の証として、中部中で育った「みつまた」を使って野登小学校6年生の卒業証書を作成することができるよう、その取組を進めようという企画です。

既に、中部中学校運営協議会だより「かけはし」でもお伝えしました通り、去る11月4日（木曜日）の午後4時から、伊勢新聞さん、中日新聞さんが取材される中、「みつまた」の植樹式が行われました。式には、本校からは、学校運営協議会会長さんや同副会長さん、PTA会長さん、校長、生徒会の本部役員、そして3年生の野登小出身者代表3名が参加。また、野登小からは、学校運営協議会会長さん、校長先生、児童会役員の皆さんに来ていただいたほか、野登地区のまちづくり協議会会長さんにも、植樹の指導を兼ねて参列してもらいました。



この取組が、文字通り実を結び、「みつまた」の栽培を通して、野登小学校と中部中学校の絆が深まっていくことを大いに期待しています。3～5年後には、中部中で収穫した「みつまた」で卒業証書を作ってもらえる日が来るのが楽しみです。

## 中庭花壇に「人権の花」 中部チューリップランとコラボ



去る10月29日（金曜日）の6限目に、3年生が学校中庭の花壇に、ピオラを植えてくれました。本校が「人権の花」運動の委託を受けていることによるものですが、別に進める中庭再生計画「中部チューリップラン」ともコラボしており、中庭という場所が、憩いの場であると同時に、仲間への思いやりの心を育む場となってほしいです。



『KOKORO先生のドイツレポート』は、早くも6回目を数えることとなりました。今回のレポートの内容は、いつもと少し内容が異なり、アウシュビッツ＝ビルケナウ博物館についてとなります。と言うのも、岡崎先生がドイツへと旅立つ前に「ぜひ行ってほしいところはアウシュビッツやなあ」という会話をしたのですが、このたび本当にその場所を訪れてくれたというわけです。



【岡崎こころ先生】  
2016年より中部中勤務。  
2021年より日本人学校の先生として単身ドイツへ。  
教科：理科・国語・保健  
特技：剣道・走ること。

二度と同じような過ちが起らないようにとの願いを込めて、1979年に世界遺産リストに登録されたアウシュビッツ。岡崎先生は、ここで何を思い、どう感じたのでしょうか……。

## アウシュビッツを訪ねて

【アウシュビッツ】、ナチス・ドイツが第二次世界大戦中に国家を挙げて推進した人種差別による絶滅政策（ホロコースト）および強制労働により、最大級の犠牲者を出した強制収容所。収容者の90%がユダヤ人（アシュケナジム）であった。

ドイツに行ったからには、校長先生にも「ぜひ行くべき!」と言ってもらって、必ず訪れようとは思っていた場所……アウシュビッツ・ビルケナウ博物館（in ポーランド）。行くまでにも関連する記事や映画を観ていったけど、いざ本物を見たときは、何かを感じるを通り越して何も感じられない気持ちになりました。これが正直な気持ちです。想像がつかないので、何も感じられないのです。ガス室の中も歩いて通ったけれど、そこがガス室ということも説明を受けないと見た目だけじゃ分からない建物になっていました。一方で、説明受けても、それが何かをわかる世界に私はいないわけですし、…。写真も、2か所を除いて全部撮れるようになって色々撮らせてもらったのですが、見ていたときよりも家で見返しているほうがとんでもない世界があったんだと、後になってズドンと重いものがきました。コロナ禍だけど、世界中から訪れる人は多く、これからも世界中が忘れずに保存していくべき場所だと思いました。それだけの人がきていて、写真も撮れるので、いくらかでも調べたらいっぱい出てくるので、私は二枚だけ紹介します。一枚目は、「ARBEIT MACHT FREI＝働いたら自由になれる」と書かれている門です。皆さんは、歴史の教科書p233、中2～3の皆さんは、p223を開いてみてください。そのページの写真の場所に行ってきました。働いても自由になれないのになんて、思えるのは自分が元気だからなわけで、そんなことすらもう誰も思ってもいなかったらと思うました。門から入るように写真も撮ったけれど、入っていく人のこと想像してしまってなんとも言えない気持ちだから文字だけのものにしました。二枚目の写真は、これだけみると、アウシュビッツってわからない建物です。こういう建物がズラって並んで、展示するものを入れる棟や当時の様子を復元した棟などがありました。



行く前に読んだ印象的なブログがあります。（ライター・ひらりささんのブログより）  
「アウシュビッツは本当に何も無い。（中略）アウシュビッツをアウシュビッツたらしめるものというのは、訪れる人間の意識とそこをととのえている人たちの努力でしかない。だからこそ、「何も無い」はずのアウシュビッツが「何か」であるということを発信しつづけるのはとても大切だし、思っている以上にエネルギーのいるところ」

この記事を読んでいって、私はどのように感じるのだろうかと思ったけど、本当に二枚目の写真を撮るときにまさにそう思いました。説明がないとただの広い土地に並ぶたくさんの建物。その事実には怖くなりました。私にできることは無いかもしれないけど、誰かに伝わって、その誰かがまた伝えてというのは、小さなことでも続けていくべきだと思いました。



およそ『学校だより』には似つかわしくない内容となりましたが、岡崎先生のレポートの最後にある、「私にできることは無いかもしれないけど、誰かに伝わって、その誰かがまた伝えてというのは、小さなことでも続けていくべき」との言葉を受け、保護者の皆さん、生徒の皆さんをはじめ、この『学校だより』を読んでいただく全ての方々に伝えたいという思いです。

あわせて、私自身も伝えたい言葉があります。それは、当時、ナチス・ドイツの迫害から逃れようと、リトアニアの日本領事館に来た多くのユダヤ人の方々に対し、大量のビザ（命のビザ）を発給して彼らを救った、杉原千畝（すぎはらちうね）さんの言葉、「大したことをしたわけではない。当然のことをしただけ」です。